

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—こ・と・ば—

NO. 52



「あの子の様子は、いつもそばにいる私には分かってしまうので、察しすぎているのかもしれませんが。だから言葉が出てこないのかも…。言葉の芽を摘んでしまっているのかも…。」という話を、何人ものお母さんから伺ったことがあります。そんな思いには必ずお返しします。「“やっぱりお母さんはボクのことをわかってくれているんだな～” って思ってますよ」と。だってそうですよね。思っていたことに手を差し伸べられて、初めてコミュニケーションは成り立ちます。表情には出ていないかもしれないけれど、こっちを向いていないかもしれないけれど、ちゃ～んと届いています。

言葉をまだ話せない子、上手く気持ちを伝えられない子にとって、言葉以外のメッセージ（表情・仕草・動作・ジェスチャー等）は、その子にとっての“ことば”ですね。それが相手に伝わらなければ、自分で何とかするしかないのです。あれやこれやと動き出すかもしれません。逆に、伝わらないことにあきらめて、自分の世界で過ごしてしまうかもしれません。気持ちをわかってもらえなければ、相手からの働きかけに関心を向けるパワーも出なくなるでしょう。誰にでも当てはまることですね。

言葉にならない思いを、言葉以外のメッセージで伝えてくる子には、こちらもまず、言葉以外のメッセージで返していくことが大切です。その子と同じ“ことば”で返していくと、何だか伝わりあいますよね。じわ～っと感じるあの感覚、“そうだったんだね”と通じ合えた感じがしたときにその子にOKをもらえるのかもしれませんが。そのとき大切にしたいのは、やりとりのペースです。大人のペースに偏らないように、息を合わせてキャッチボールをするように。どのくらいかなあ？と迷ったときは、慌てないで、子どもの顔をゆっくり見つめてみてください。近くにいるお母さんお父さんが誰よりも知っているのだから、“このくらいかな”と思った感じがきっとベストです。お互い心地よいやりとりができてきたら、ちょっとだけタイミングをずらしてみたり、子どもからのメッセージを待ってみたりすると、中身が濃くなってくると思います。

『子どもの気持ちを代弁することが大切』と、支援の中ではよく言います。大人が言葉に置き換え声をかけていくことですが、その前段には「キミならOKだよ」って、その子に認めてもらわなくちゃです。通じ合った気持ちに添えられた声かけほど、気持ちのよい響きはないはず。耳触りもよいことでしょう。言葉の育ちは、働きかけられたことを、自分に向けられたこととして受け止めていくこと（理解すること）から始まります。

子どもがお話するようになって、大切にしたいことは同じです。おしゃべりな子でも、通じ合えずに困っている子がたくさんいます。そんな子にも、そんな子こそ、もう一度言葉以外のメッセージでのやりとりから入っていくと、生きた言葉で話し合える糸口が作れたりします。

話は戻りますが、分かってあげ過ぎが、言葉の芽を摘んでしまうことなんてありません。その子の言葉にならない言葉をたくさん知っている自分を誉めてあげてください。手がかりや糸口をたくさん持っていることに自信を持って、これから活かしていきましょう！

最後にもう一度、「言葉以外のメッセージで伝えてくる子には、まずは言葉以外の方法で応えていきましょう。だって、それがその子の“ことば”なんだから。」(R2. 9) K

